

おみたまの歴史を知ろう41

盆 綱

ご先祖様の送り迎え

まもなく、ご先祖様の霊をお迎えするお盆の季節がやってきます。一口にお盆と言っても、全国各地でその内容や風習はさまざまです。よく知られている盆行事としては、ご先祖様の霊を迎えるために火を焚く「迎え火」があります。地域によつては御招霊とも呼ばれています。また、京都五山の「送り火」などは、お盆に帰ってきたご先祖様の霊をあの世界へ送り出すためのものです。そのほかにも「灯笼流し」や「盆踊り」なども盆行事です。

私たちの郷土おみたまでも、特色がある盆行事が行われています。墓地と家々の間を子どもたちが藁で作った綱を曳いて歩き、ご先祖様の霊を送迎する「盆綱」です。県内では、霞ヶ浦と北浦周辺、涸沼と涸沼川流域、牛久沼や小貝川流域などに限られ、十八市町村で行われています。県教育委員会の調査で

は一〇〇件を超える地区で盆綱が確認されています。なお、現在のところ、那珂川以北の県北地域、小貝川以西の県西地域では確認されていません。

現在、小美玉市では、把握しているだけでも十五の地区で行われています。過去に行われていた地区も合わせると十七の地区におよびます。市町村別では一番多い数になります。

小美玉市指定無形民俗文化財の「立延の盆綱」を紹介していきます。

盆綱は八月十三日の朝につくられます。子どもたちが集めた藁と井戸縄を使い、修善院の境内にある公民館で地区の古老や子供会役員が中心となり制作されます。竹を芯として藁を束ね、立延地区の戸数分の縄を胴体にまわして、龍のかたちに仕上げていきます。

盆綱は完成すると共同墓地に運ばれ、夕方に小学一年生、中学二年生の男子たちによつて担ぎ出されます。墓地の入口で盆綱を担いだまま三回転し、ご先祖様の霊を乗せると、家々に向かいます。新盆の家などでは盆綱を担いだまま土足で家の中へかけあがり、盆棚の前にほうりだしてご先祖様の霊を降ろします。夜遅くまでかけて、子どもたちは一軒一軒をまわって行きます。行事が終わると盆綱は薬師堂の軒下に一年間とり置かれ、翌年の盆綱づくりのときに燃やされます。

立延の盆綱では行っていないが、八月十五日、逆に家々をまわつてご先祖様の霊を盆綱に乗せ、墓地に行つて降ろす「送り盆」を行う地区もあります。

現在、盆綱を先祖代々継承してきた地区でも少子化の影響もあり、簡素化や消滅の危機に直面しています。文化庁は、平成二十七年三月二日、茨城県と千葉県で行われる盆

綱を「東関東の盆綱」として、国選択無形民俗文化財（記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財）に選択しました。それを受けて、本年度から三年間かけて、県教育委員会では記録保存のための実態調査を行うことになりました。専門家が現地を訪問して詳細な調査を行つて報告書を作成する計画です。盆綱を行っていた地区も調査対象となりましたので、情報がありましたら、生涯学習センター（コスモス）（☎二六―九一一）までご連絡ください。



立延の盆綱



上馬場の盆綱



立延の盆綱 制作の様子

実施している地区

立延 下馬場 小埜 隠谷
川戸 前原 佐才 中台
上馬場 田畑・橋下
岡・帯阿井 根玉里
大井戸 平山 川中子
かつて実施していた地区
幡谷 倉敷